

令和 6 年度 第 2 回 松江市立皆美が丘女子高等学校運営協議会 会議録

- 1 日 時 令和 6 年 12 月 14 日（土） 11 時 15 分～12 時 10 分
- 2 場 所 松江市立皆美が丘女子高等学校 応接室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 大谷みどり委員(会長)、昌子 誠委員(副会長)、池田太持委員、宮廻智美委員、
*欠席：鷗鷯 順委員
 - (2) 事務局 多々納雄二校長、山中清恵教頭、糸川健治事務長
- 4 議 題
 - (1) 学校現況報告
 - (2) 地域連携
 - (3) 学校評価
- 5 議事の要旨
 - (1) 学校現況報告
資料により報告した。
 - (2) 地域連携
資料により報告した。
 - (3) 学校評価
資料に基づき実施することとした。
- 6 会議経過
 - (1) 学校現況報告 及び (2) 地域連携
委員から次のような意見があった。
 - ・ 成年年齢が 18 歳に引き下げられたことに伴い、高校生のうちに契約や金融について学ぶ必要がある。関係機関からの講師派遣などができるようであるので、活用されてはどうか。
 - ・ 修学旅行・研修旅行について、行先は当面変わらないのか。
 - ・ 「へるんをたたえる青少年スピーチコンテスト」への出場は立候補制か、選抜を行っているか。来年は NHK 連続テレビ小説で小泉八雲を題材とした「ばけばけ」が放送予定であり、その効果も期待したい。
 - ・ 国際コミュニケーション科の定員割れが続いている状況だが、何らかの資格が取得できるなどといったメリット、明確な優位性や特色がないと状況は変わらないのではないかと。皆美が丘女子高のあり方としても検討が必要で、例えば共学化や島根大学との連携、地域連携なども検討が必要。大学連携については受験競争に負けない力が必要。地域としては高校は存続して欲しい。
 - ・ 部活動について、部員が皆無となった部は今後どうなるのか。

これに対して事務局から次のような説明があった。

- ・ 契約や金融に関する学習は社会生活を送るうえで必要なことであり、金融機関やその他関係機関からの案内があることを承知している。実施できるよう検討したい。
- ・ 国際コミュニケーション科の台湾研修旅行については、台湾との交流を推進している松江市の意向もあることや、今年度が初めての訪問であり少なくとも３年程度は継続したうえで検討したい。
- ・ 普通科の東北・東京修学旅行については、震災研修や大学訪問など、良い学びができており、あえて変更する必要はないと考えている。
- ・ 「へるんをたたえる青少年スピーチコンテスト」への出場者については、国際コミュニケーション科で校内コンテストを実施し、優秀者を出場させている。また、毎年「まつえ学」で、小泉八雲記念館長で小泉八雲の子孫である小泉凡氏を講師に迎え、松江と小泉八雲の関係などを中心とした講演をいただいている。「ばけばけ」の放送も併せ、学びに繋げていきたい。
- ・ 国際コミュニケーション科の定員割れ状況については、海外研修旅行の実施や履修する語学（英語・韓国語・中国語）の検定受験を推奨するなど、特徴的な取り組みも行っているが、昨今の少子化の進展も含め様々な要因も考えられる。令和３年度に校名変更・学科再編を行い４年目となる学校魅力化の取り組みを検証する必要がある。
- ・ 部員がいなくなった部活動については、当面、休部扱いとしている。本校に明確な規定はないが、他校では３年間状況が変わらなければ廃部としている例もある。一方で、継承していくことも重要であり、軽々に無くしていく必要はないと考えている。

(3) 学校評価

委員から次のような意見があった。

- ・ 保護者向けアンケートについて、家庭で生徒（こども）とどれくらい学校の話をするのかを問う設問を設けてはどうか。学校での活動や生活にすべての保護者が強い関心を持っているとは限らない。傾向を掴むためには理解や関心の度合いを把握することが必要ではないか。
- ・ 生徒向けアンケートについて、設問の表現が難しくわかりにくいように感じる。

これに対して事務局から次のような説明があった。

- ・ 学校に対する評価を把握するための有用なアンケートとなるよう、特に保護者に対しては回答協力をお願いしていく。
- ・ 設問の設定や表現を工夫したり、学校の満足度を問うなど、回答や評価のわかりやすさも今後検討したい。

7 事務局等

松江市立皆美が丘女子高等学校 電話 0852-39-0216